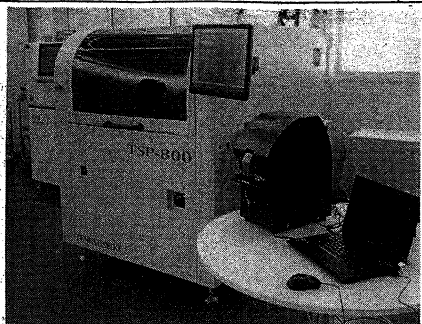


粘性解析・印刷データ連動

クリームハンダ機器 天竜精機、セット拡販

【諏訪】天竜精機(長野県駒ヶ根市、小野賢一社長、0265・82・5111)は、新開発のクリームハンダ粘性解析装置とクリームハンダ印刷機のセット販売を2018年内にも本格化する。当初、6月の供給開始予定だったが、コスト面の調整などで市場投入が遅れていた。印刷機は現在、タイの日系協力工場へ量産委託する準備を進めており、19年4月に量産開始の見込み。20年3月期には100台以上の出荷を予定し、約12億円の売り上げを目指す。

ハンダの解析データと、基板検査装置から得た印刷済み基板の検査結果データを、ネットワーク上ですり合わせ検証可能なAI機能を盛り込む考えだ。



クリームハンダ粘性その粘性特性(ずり応力)を解析する。サンアナライザー」は、基板プリンク容器のハンダ板へのハンダ印刷現場を毛細管から押し出すでメタルマスク上のクリームハンダを採取し、実際の、毛細管壁面にかかる圧力や速度を時間軸に沿って数値データで把握できる。

800」に同解析データをネットワーク経由で送ることで、「経路や勘に頼らない、再現性の高い印刷設定が可能。高剛性化などにより、従来型より高精度印刷可能なTSP-800の能力をより引き出せる」(小野社長)という。

パソコンを通じて連動するクリームハンダ印刷機「TSP-800」ハンダ粘性解析装置(手前)と新型ハンダ印刷機

天竜精機では現在、レオロジーアナライザーに人工知能(AI)機能を付加する研究開発途上にある。19年初頭には、同機によるハ